

<参考> 認知症の診断・検査について

認知症は、医師による問診、検査を行い、
症状を継続的にみることにより診断されます。

● 問診

医師が患者様またはご家族に対して病歴や遺伝的要因、家庭や職場環境など、患者様を取り巻く状況について確認します。

● 検査

認知機能検査・心理検査

現在の年月等の基本的な状況の確認や簡単な計算などを行います。

画像検査(CT、MRIなど)

CT、MRIなどの検査装置で撮影した頭部の画像から、
脳萎縮^{いしゆく}や脳血管障害の存在などを調べます。

ブイエスラドによる検査は、MRI検査の一環として行います



MRI検査とは、磁石が埋め込まれたトンネルの中に
体を入れて、コンピューターによって、
体の中を映し出す方法です。

※認知症には、アルツハイマー型認知症以外にも、脳梗塞によるものなど
さまざまな種類があるため、他の種類の認知症でないかを調べるために
血液検査などが行われることもあります。

※画像診断は、補助検査であり可能な限り実施することが望ましいとの位置
づけです。(日本老年精神医学会 ADの診断/治療マニュアル)

ご不明な点があれば主治医にご相談ください

病院記入欄

医療機関名・連絡先:

担当医師名:

電話番号:

脳萎縮評価支援システム

ブイエスラド[®]について

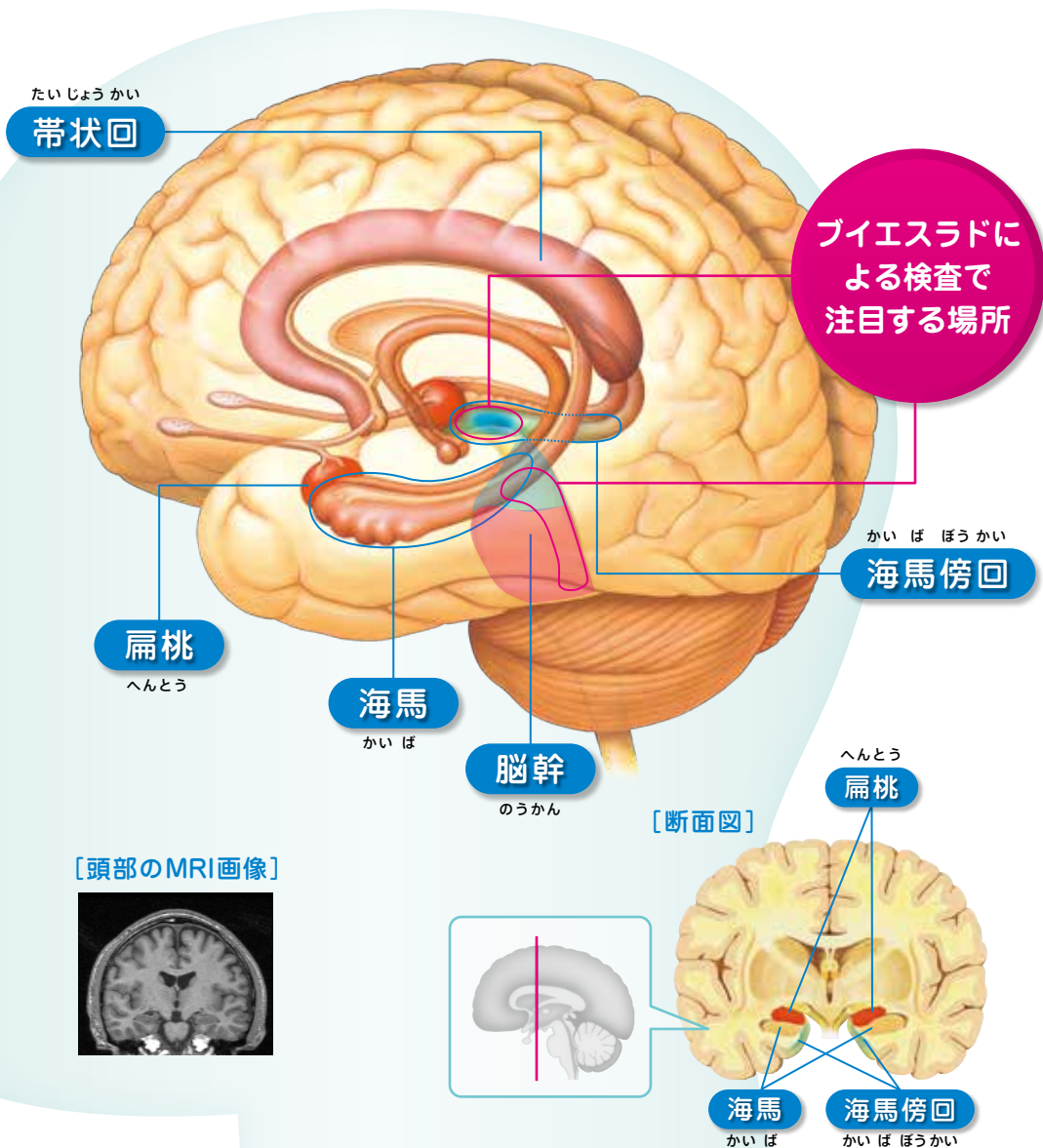


Question

ブイエスラドによる検査とは、
どのような検査なのですか？

A. MRIで撮影した脳の画像情報をもとに、
海馬傍回付近等における脳の萎縮の
度合いを検査するものです。

* 海馬傍回とは、記憶の形成・保持・再生をつかさどる領域です。
非常に小さな領域で、海馬の周辺に位置しています。



よくあるご質問

Q. なぜ海馬傍回付近をみるのでしょうか？

A. アルツハイマー型認知症では、海馬傍回付近の萎縮がもっとも早期にみられるためです。

Q. なぜ背側脳幹をみるのでしょうか？

A. アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の脳の萎縮を比べた場合、レビー小体型認知症では背側脳幹の萎縮がみられることがあるためです。

Q. どのように脳の萎縮をみるのでしょうか？

A. MRIで撮影した頭部の画像データと、あらかじめ用意しておいた健康な脳の画像から作ったデータをコンピューターで照合・解析し、脳の萎縮の度合いを測ります。
海馬傍回付近は非常に小さく、目で萎縮を確認することが難しいのですが、この検査ではコンピューター解析により確認できます。

Q. 簡単に検査できるのでしょうか？

A. 患者様は頭部のMRI画像を撮るだけで検査できます。通常のMRI検査の一環として行うことができ、検査中の痛みはありません。食事制限等もなく、検査前後も普段通りに生活できます。

注意

ブイエスラドによる検査は、あくまで脳萎縮を客観的に評価する検査です。海馬傍回付近や背側脳幹に萎縮がみられても、アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症とは限りません。症状、経過や他の検査結果などとあわせて総合的に診断してもらうことが大切です。